

2022 年度「ケニア短期派遣プログラム報告書」

生物産業学部・自然資源経営学科・2 学年・学籍番号・氏名 齋藤零央

1. 当初の目的

自分がケニア短期派遣プログラムに応募した理由として、一つ目の理由として、食べるという当たり前のようである生き上で欠かせない活動をできていない人たちに対して将来何か力になりたいということがあります。二つ目の理由として、ケニアという日本とはかけ離れた環境を体験し現地の人とコミュニケーションをとってみたいという二つの理由がありました。

2. 目的達成のために現地で活動した内容

現地では多くの場所に赴き様々な体験をすることができ、また赴いた先々で多くの現地の人と会話することができました。これらの経験は自分の一つ目の目標である「食べるという当たり前のようである生き上で欠かせない活動をできていない人たちの力になる」ということに対しての重要な一歩になったと考えます。具体的にどのような体験が、この目標に対しての一歩になったのかというと、キツイ地域での一般的な農家を見れたということです。彼らは食べ物を自分たちで作りそれらを自分たちだけで消費していました。彼らにとって食料は買うものではなく、作るものであったのです。正確に言えば彼らは農家ではなく、農耕を行っているのです。こうなっている原因として、アフリカ内では経済規模が大きいほうであるケニアであってもお金で食料を買えるほど食料生産量もしくは輸入できるほどの食糧市場がないという事実があると考えます。しかしながらケニアでは、JICA の協力のもと食料的な自立を図るためにケニアにもともとあった栄養価の高い野菜を普及させる活動や、コメの生産などに力を入れています。また現地の食糧生産の現状を見れたことによって自分自身何ができるかの案が具体化してきました。2 週間という短い期間だったため、目的達成のために現地でできたことはほとんどありませんが、目的達成に向けて動くための下地がこの 2 週間で形成することができたと感じました。

二つ目の目標である、「現地の人とコミュニケーションをとる」ということに対してはかなり行動に起こせていたと考えます。自分は初対面の人とあまり話すタイプではないのですが、ケニアでは彼らの明るい性格や、話すことが好きな国民性に大きく助けられて現地学生のおよそ半人ほどの人と話すことができました。その会話の中で、授業では習わなかったケニアでの就職活動についてや部族によって話す言語が微妙に違うこと部族はとってもたくさんおり 47 部族とも 74 部族もいるといわれていることなどを学びました。

3. 目標達成度の自己評価

一つ目の目標である、「食べるという当たり前のようである生き上で欠かせない活動をできていない人たちの力になる」ことに対する目標達成度としては 100 段階のうち

10ほどであると考えます。まず目標が大きく達成までの道のりが長いこともこのような自己評価になったのもありますが、今回の短期留学で気づいたこととしてある程度の環境と知識さえあれば自分たちでそこらへんに生えている草を食べ、野生動物を狩ることで食べていけるのではないかということです。つまりところ食べ物がないという人の多くはもしかしたら、戦争や異常気象もしくは政府の搾取によって食べられていないもしくは、食べるものがあるのにもかかわらず今まで食べてきていないから食べ物と認識していないというようにこの目標達成には食糧生産の方法を追求していくとともに、その国の環境や状態に応じて視野を広げ知識で食べ物を探すということも方法の一つとしてあるということを実感しました。

二つ目の目標である「現地の人とコミュニケーションをとる」ことに対する自己評価としては、100段階中70だと考えます。ケニア人の性格によってあまり積極的でなく英語があまり流暢でない自分であっても伝えようとする姿勢に対してしっかりと聞こうとしてくれる彼らの姿勢にはとても助けられ、コミュニケーションを次第にとれるようになっていきました。また彼らとメールやインスタでも会話を取り合うことができ自分としては彼らとは知り合いと呼べるぐらいの中にはなったのかなと考えます。しかし友達になれたかと聞かれると疑問が残るところで、やはり英語を使ったコミュニケーションにおいてまだまだスムーズに喋れていないことを実感しました。

4. 今後の取り組み

今後の取り組みとしては、一つ目の目標である「食べるという当たり前のよう生きるので欠かせない活動をできていない人たちの力になる」ことに対して様々なアプローチがあることを今回の短期留学で実感することができたため、そこを踏まえて自分にできることを考えていきたいと思います。二つ目の目標である「現地の人とコミュニケーションをとる」ということに関しては、円滑なコミュニケーションによるより速い親睦関係の構築のために、単純に語学力の向上を目指していきたいと考えます。

5. その他

(ア)持っていって良かったもの

ウェットティッシュ・小さなメモ帳・変換プラグ・一つのコンセントからUSB端子が複数個ついている充電プラグ

(イ)用意したがいらなかったもの

たこ足コンセント (変圧器がないと使えないため)・パソコン (大きいうえに充電する場所やインターネットを使える環境が限られるためいらなかった)

(ウ)現地で使用したお小遣いの金額

約1万5千円

6. 次年度以降の参加者へ

(ア)事前に準備した方がよいこと

円をドルに多めに变えておくこと、洗面具をすべてまとめられるケースを買っておくこと、旅行用のケースの測量装置の購入。

(イ)勉強しておくべきこと

英単語（英語の文法も重要ではあるが、ものすごい速さでしゃべるため単語がひとつわからないとそのあとと言っていることがすべてわからなくなってしまうため）現地語（現地の人は自分たちの言語を使ってくれると喜んでくれる、また向こうの人が話していることを少しだけわかるようになる）

